

(様式第4号)

第4回上田左岸地域協議会 会議概要

1 審議会名	上田左岸地域協議会
2 日時	令和5年7月20日 午後1時30分から
3 会場	川西公民館 大ホール
4 出席者	赤堀委員、浅川委員、小林委員、小山委員、田村委員、西入委員、羽田委員、樋口委員、松田委員、宮坂委員、宮崎委員、宮下委員、安江委員、柳澤委員、山岸委員、山田委員、和田委員
5 市側出席者	【事務局】滝沢城南地域振興政策幹、間宮塩田地域自治センター長、藤沢川西地域自治センター長、竹花課長補佐兼地域内分権推進担当係長、滝澤地域内分権推進担当主査、清水地域内分権推進担当主任、城下地域内分権推進担当主査、芳池地域内分権推進担当主事
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和5年7月21日
協 議 事 項 等	
1 開会	
2 会長あいさつ	
3 協議事項	
(1) 各分科会協議「第1分科会」「第2分科会」「第3分科会」	
上田左岸地域の課題について	
分科会ごとに分かれて意見交換	
【第1分科会：自治・まちづくり】	
調査・研究テーマについて協議	
テーマのひとつである住民と住民自治組織との連携協働の推進について、現状と課題の情報共有を行った。	
・住民自治組織交付金の交付要綱の制度内容や川西まちづくり委員会を例にとって現状などを確認した。	
・課題として、委員の人選に苦労していること、委員が頻繁に入れ替わるため活動の継続性が損なわれること、交付金の使途が制限されており参加住民に手当が出せないことなどが挙げられた。	
【第2分科会：子育て・福祉・教育】	
調査・研究テーマについて協議	
以下、事務局からの報告	
・7月2日に川辺泉田防災センターで川辺泉田まちづくり協議会がフードドライブを実施した。	
・来月に長野大学との意見交換を予定しているため、長野大学地域づくり総合センターへ事前相談シートを提出した。	
・7月19日に長野大学において分科会長、長野大学地域づくり総合センター長、長野大学地域連携研究グループ事務長と事前打ち合わせを行い、8月17日は長野大学地域連携研究グループ事務長に来ていただく予定となっている。	
以下、委員からの主な意見	
・長野大学地域づくり総合センターのように、地域への門戸を開いている大学はあまりない。	
・長野大学の学生ボランティアは、ゼミ、サークル単位で実施しているものが多く、先輩たちから引き継ぎながら継続してきているものが多いため、大学全体で行っているシステムではないようだ。	

- ・長野大学への希望として、地域ボランティア活動でも単位が取れるようお願いしたい。活動にも活気がつき盛り上がるとともに、学生も社会人になった時に役立つのではないかな。
- ・高校でも、福祉学科がある高校は、福祉施設に出向いて体験し、単位を取得することもある。
- ・最近の子どもについて、まじめでしっかりしている子がいじめられる風習があるのではないかな。
- ・目に見える世界以外にインターネット(SNS)の世界もあり、その中でいじめなどは大人が気づきにくい。
- ・そういう(SNSのような)場所ばかりではないということを広げていければ、子どもの選択肢も広がる。
- ・中学生でも携帯電話の所有が拡大している。
- ・子どもが少なくなり、ラジオ体操や道祖神ができない地域もある。
- ・これまで考えてきた子どもの居場所として、公民館等の公の場所を使うことは安全面、管理面で安心できる。
- ・運営には牽引する人がいないと難しいし、個人だけでは無理である。まちづくり協議会、社会福祉協議会、包括支援センター等、どういう団体が中心になりえるか。ライオンズクラブ(ジュニア組織)等、核になりそうな団体を中心に運営できればよいと考える。
- ・支援者として、フードドライブ、信州こどもカフェ、長野大学からの派遣などが考えられる。
- ・現在、こども食堂を運営していただける団体等がなくても、会議の中で新たな団体を立ち上げるということも考えられる。

【第3分科会：産業・地域振興】

調査・研究テーマについて協議

農業政策課から資料を基に説明

以下、質疑応答

(委員)上田市の6次産業化の現状は、ぶどう栽培からワイナリーによる醸造、販売が主だったとのことだが、他の取り組みはどうか。

(市)大豆から豆腐、りんごからジャムが商品化されている。過去には、地域の公民館を加工場としていたが、法律による衛生面で厳しくなった。現在は企業化が進んでいる。委託先にぶどう菌を醸造用として出荷している生産者もいる。

(委員)上田左岸地域でブランド産として、今後、可能性のある農産物はあるか。

(市)米、麦、大豆、ぶどうが考えられる。上田市は、農産物の栽培に適しており、特徴がないため、なんでも栽培可能である。

(委員)地産地消推進の飲食店が市内に26店舗あるが、少ないと感じる。

(市)申請で認定している。さらに広くPRしていきたい。

(委員)直売所で個人生産者が販売するにあたり、どのような課題があるか。

(市)直売所は、コスト面で課題がある。

(JA職員)農産物の有効活用として、規格外の加工に力を入れている。ドライフルーツの生産施設として浦里地区に施設を整備した。西部地区営農活性化組合が運営している。

塩田産大豆を6次産業化し、味噌として売り出している。フェイスブックの活用によりPRを行っている。

(市)情報発信としては、TwitterによるPRを行っている。

(委員)上田左岸地域の農産物のブランディングについて考えを聞かせて欲しい。

(JA職員)川西のこうじいらず、塩田のナカセンナリなど大豆の活用が突破口になるのではないかな。こうじいらずは、細々栽培しており、生産者によるPR不足もある。地域の味噌として土壌、風土も含め健康食品として売り出していったらよいのではないかな。

(市)大豆のように既に取り組んでいるものを活用していくことが必要ではないか。

(2)その他

(会長)上田左岸地域の自治会長宛に、上田市のまちづくりに関する補助金のアンケート調査をお願いしており、自治会連合会役員会において、了解をいただく予定になっている。参考資料としてまちづくりに関する補助金の概要を付けており、市の定期送達に合わせて配付し、返信用封筒で提出いただく予定である。川西地域、塩田地域については自治センターへの直接の提出も可能とする。アンケートの回答について自治会名は伏せて取りまとめ、分科会での検討資料とする。アンケートの概要は、上田市の自治会対象の補助制度について、自治会費、収入についての状況、新自治会長への補助制度の説明が不十分であるという点についてである。各自治会長が補助金を申請するにあたって困った点、改善してほしい点があれば、アンケートを通じて出していきたい。

空き家対策について、来月の協議会で市の担当課に説明をしてもらう。空き家対策は全国的な課題になっており、上田市でも全市的な課題を認識し、対策に取り組む専門課を設けている。

4 その他

次回の開催予定

日時 8月17日(木) 午前10時00分から

場所 城南公民館 大ホール

5 閉会